

昨年デング熱がでなかったのは、どうして？

東京都福祉保健局健康安全部環境保健衛生課 課長 齊藤 祐磁

《質問》

昨年2015年は幸いに東京ではデング熱が発生しなかったですが、どうしてでしょうか。今後の発生の見通しはどうでしょうか？

《回答》

デング熱対策は、ウイルスを媒介する蚊の発生を減らしていくことが重要です。昨年、デング熱の都内での感染が見られなかったのは、行政や関係機関の働きだけでなく、都民一人ひとりが蚊の発生を防ぎ蚊に刺されないよう工夫するなど、地域一丸となり行動した成果ではないでしょうか。蚊の発生を減らしていく行動を積み重ねていくことで蚊の生息しない環境が整い、デング熱の発生を防ぐことができたと考えます。

都では、引き続き蚊を少なくして快適な夏を過ごせるように、市区町村等各関係機関と協力し、デング熱対策を推進していきます。

それでは、以下に上記質問の回答を踏まえ、都が行った取組等について具体的に説明します。

1 媒介蚊発生の早期探知「サーベイランスの拡充」

都ではこれまで、公益社団法人東京都ペストコントロール協会に業務委託を行い、16施設で蚊を捕集して病原体の保有状況を調査する

感染症媒介蚊サーベイランスを実施してきました。平成27年度からは、①利用者が極めて多い、②海外渡航者がよく訪れる、③大きなイベントが開催される、特別区内の9施設(公園)を選定し、蚊の成虫と幼虫のデング熱ウイルス等の有無を調査することとし、昨年4月から11月までの期間、サーベイランスを実施しました。

2 蚊の発生抑制「蚊の発生防止強化月間」

蚊が本格的に発生するシーズン前の6月を「蚊の発生防止強化月間」と定め、駅・電車内ポスターの掲示、ラッピングバスの運行、トレインチャンネルの放映、冊子・リーフレットの作成配布等を通じて、都民や施設管理者向けに蚊の発生防止を呼びかけました。

また、感染症媒介蚊対策講習会「今から始めるデング熱対策」を、6月10日に渋谷区文化総合センター大和田さくらホールにて開催しました。500名を超える多くの来場者があり、会場からも活発な意見を頂いております。

3 公園や周辺道路の整備

都立公園やその周辺都道の管理者である東京都建設局は、サーベイランスを実施する9公園を中心に、雑草や下草刈り等の日常整備に力を入れることに加え、幼虫対策として雨水



ますや集水ますにIGR剤(昆虫成長制御剤)を定期的に投入する等、蚊を減らすための対策を強化しました。薬剤の投入頻度等を以下に示します。

①都立公園(サーベイランス9公園+2公園の11公園)

指定管理者が月2回雨水ますに薬剤を投入する。降雨の状況に応じて適時追加する。

②周辺都道(上記公園の周辺の都道)

道路維持工事の際に、月に1から2回集水ますに薬剤を投入する。

4 各区市の取り組み

各区市においても蚊の発生防止対策の様々な取り組みを実施しています。区立公園での蚊サーベイランスの実施、雨水・排水ますへの薬剤投入、マンション・自治会・寺院等希望者への薬剤配布、区民や町会向け講習会の開催、パンフレット等の作成などです。

5 海外感染患者への対応

デング熱については、都内で毎年数十件の海外感染例が確認されています。海外での感染については、医療機関での迅速な診断や患者への適切な保健指導が重要です。昨年度のデング熱患者発生を受け、医療機関や保健所では患者に対しウィルス血症中に蚊に刺されると自らが感染源となることを説明し、蚊に刺されないように工夫することなどの保健指導を強化しています。

〔謝辞〕

蚊の調査及び駆除にあたって、多大なる御協力を賜りました公益社団法人東京都ペストコントロール協会に感謝の意を表します。

